

JA共済における熱中症への対応と地域貢献について

全国共済農業協同組合連合会

農業・地域活動支援部 山口 哲央



0. はじめに(JA共済の紹介)

1. 熱中症による保障(補償)

- (1) 農業を取り巻く熱中症(概観)
- (2) 熱中症による保障(補償)の全体像
- (3) 熱中症を補償する主な民間保険商品

2. 共済事故等の発生状況の分析

- (1) 生命共済の概要
- (2) 生命共済における熱中症の支払実績
- (3) 支払事例からみる傾向(入院編)
- (4) 支払事例からみる傾向(死亡編)
- (5) 支払事例(重症化事例)
- (6) 傷害保険の概略(共栄火災 JA安心倶楽部)

3. JA共済の地域貢献活動

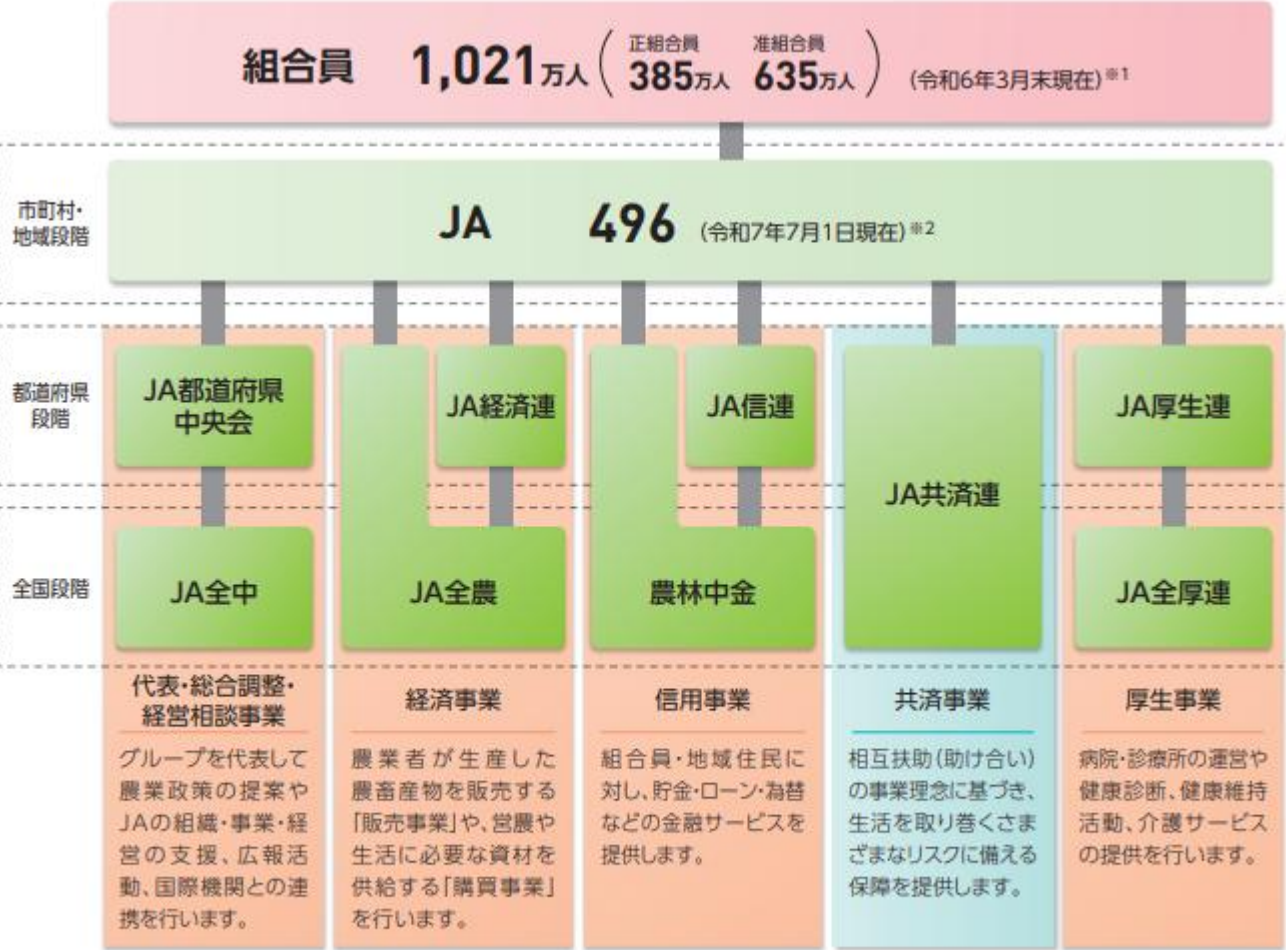
- (1) JA共済の地域貢献活動の全体像
- (2) 熱中症対策の傾向
- (3) 熱中症対策の取組み(JAの取組事例)
- (4) 熱中症対策の取組み(JA共済連の取組事例)
- (5) 熱中症対策の取組み(今後の課題と展望)



0. はじめに(JA共済の紹介)

誰がやっているの？(組織、運営主体)

▶JAグループ組織図



※1 組合員数は、「令和5事業年度総合農協統計表」(農林水産省)によるものです。

※2 JA数は、JA全中調査によるものです。

▶JAとJA共済連が一体となってJA共済事業を運営



0. はじめに(JA共済の紹介)

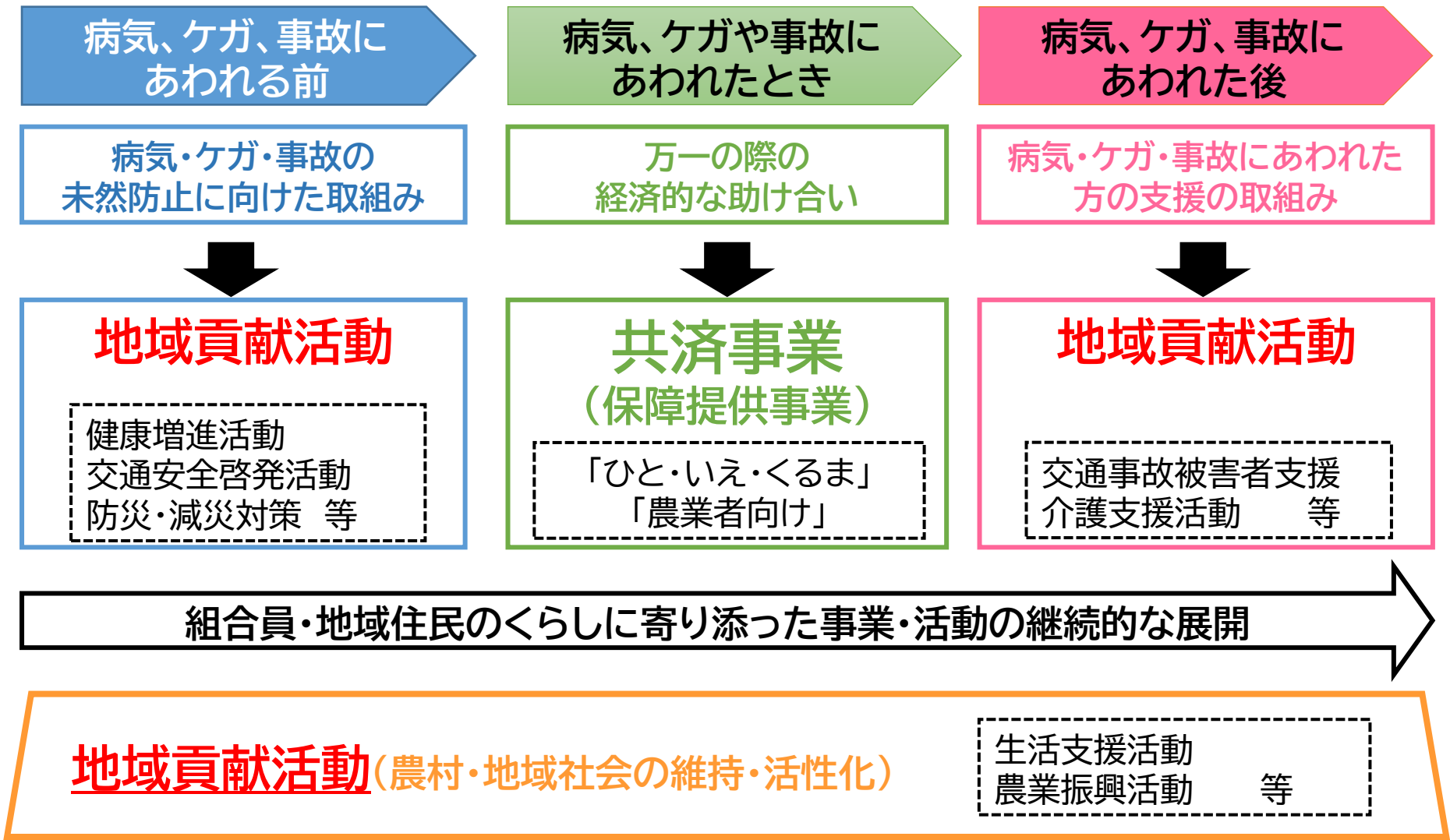
どんなことを目指しているの？(JA共済の活動方針)

JA共済は「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、豊かで安心して暮らせるために
「保障の提供(共済事業)」と「地域貢献活動」
を通じて、農業と地域社会の活性化・発展に努めています。



0. はじめに(JA共済の紹介)

どんなことしているの？(取組概要)



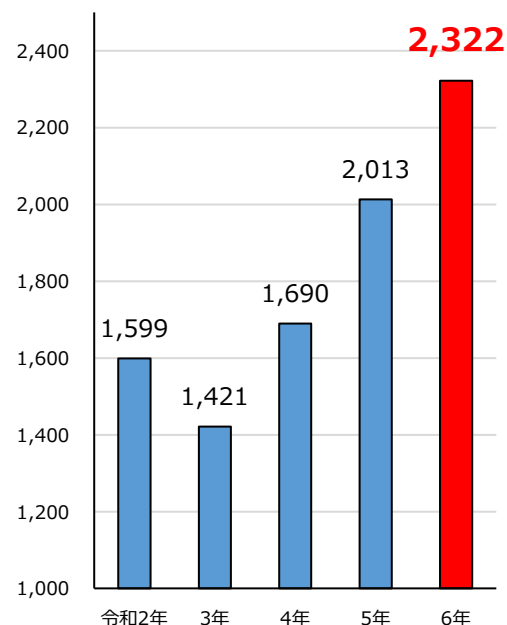
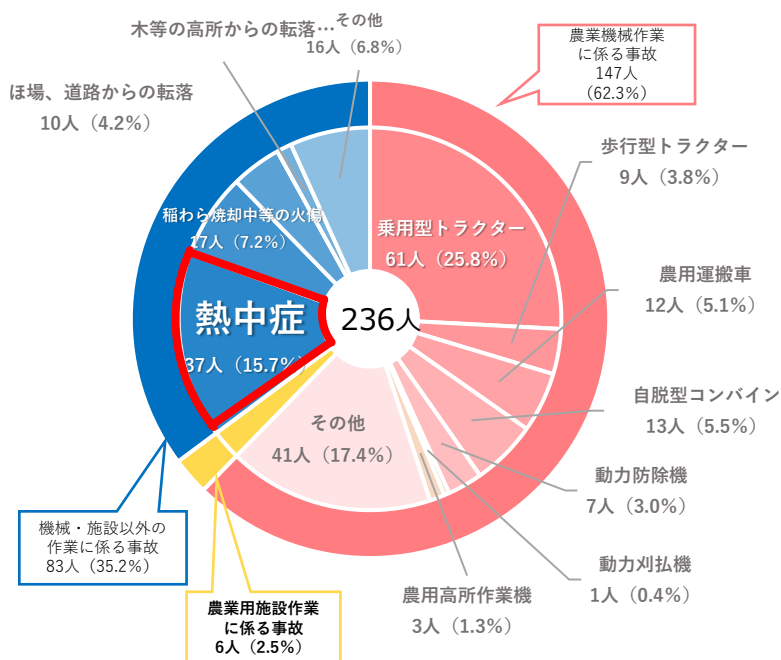
1－(1)農業を取り巻く熱中症(概観)

- 農作業死亡事故(令和5年)において、「熱中症」による死亡者は37人と全体の15.7%であり増加傾向にあります。
- 令和6年度の夏季(5～9月)において、田畑等で農作業中に熱中症によって救急搬送された人数は2,322人と直近5年で最多となっています。
- 若手青年農業従事者90人を対象としたアンケート調査においても、農作業中、農作業後で過去に熱中症にかかったことがある・周りでかかったことがある人がいる、と回答した人は半数以上にのぼっています。

▶要因別農作業死亡事故状況(令和5年)

▶仕事場における救急搬送人員数

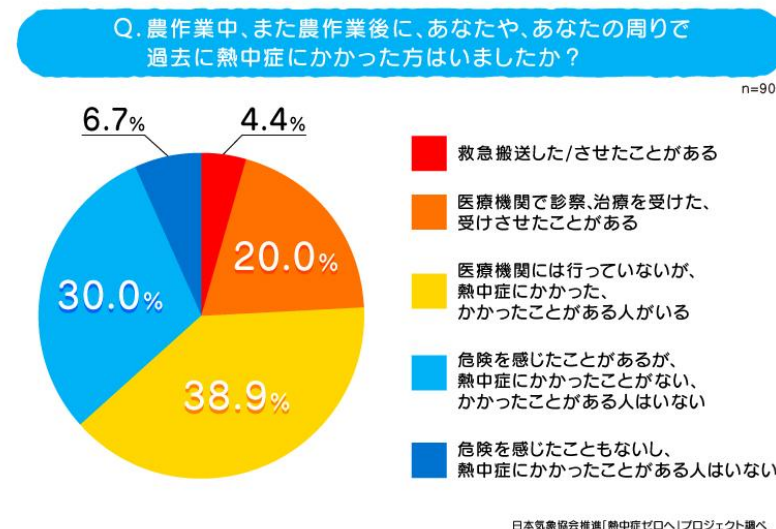
▶農業における熱中症経験



※仕事場:田畑、森林、海、川等

※農・林・畜・水産作業を行っている場合のみの区分

出典:消防庁「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」より



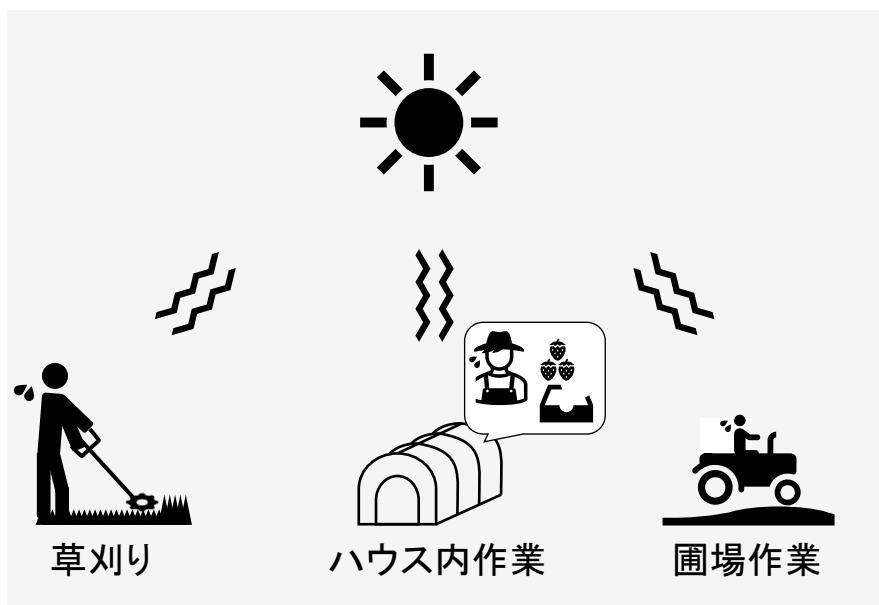
出典:熱ゼロ研究レポート:農作業と熱中症に関する実態調査
(調査期間:令和7年3月～4月)

出典:農林水産省「農作業死亡事故調査」より

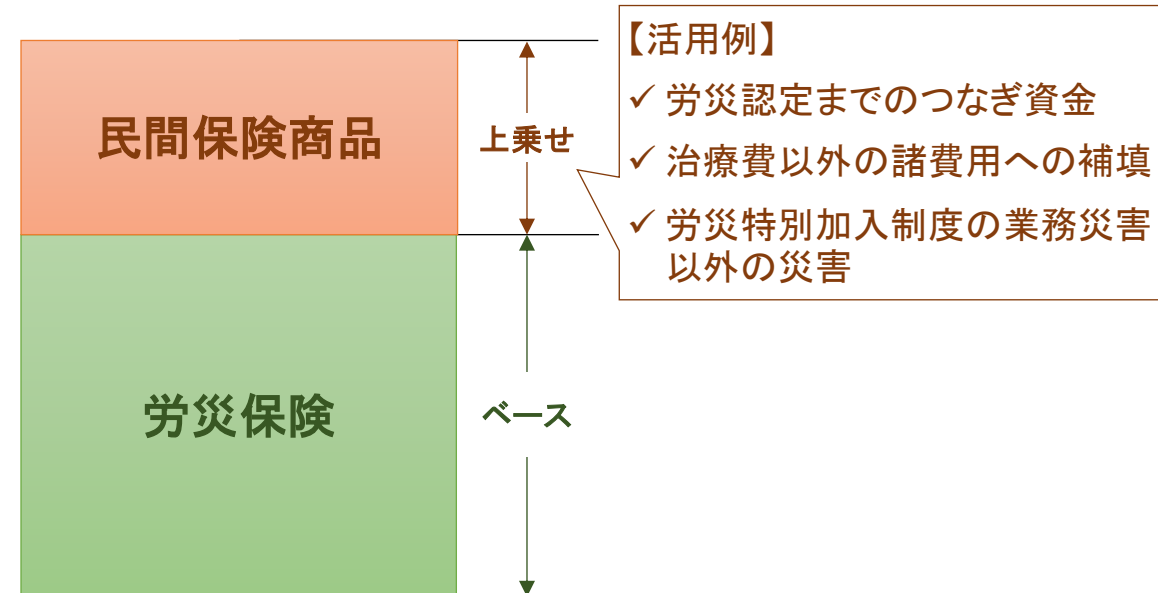
1-(2) 熱中症による保障(補償)の全体像

- 農作業中、熱中症にかかり病院等で治療を行った場合、治療費等への保障(補償)として「労災保険」と「民間保険商品」に大別されます。(「健康保険」は割愛)
- 「労災保険」をベースとしつつ、治療費以外の費用への備えを目的とした上乗せ保障として「民間保険商品」を活用いただくことをおすすめしています。

▶ 熱中症による保障(補償)の全体像イメージ



熱中症発症



【参考】労災保険（農業）の制度概略等

- 労災保険は、労働者の業務または通勤による負傷、疾病、障害、死亡に対して保険給付を行う制度
- また、労働者に準じて保護することが適当であると認められる一定の方（農業においては、特定農作業従事者・指定農業機械作業従事者・中小事業主等）については特別加入が可能
- 個人事業かつ労働者が常時5人未満の場合は任意加入であったが、第118回労働政策審議会労災保険部会（令和7年8月7日開催）にて、強制適用（加入義務化）の方向性にて検討を進めることを確認したとの報道も

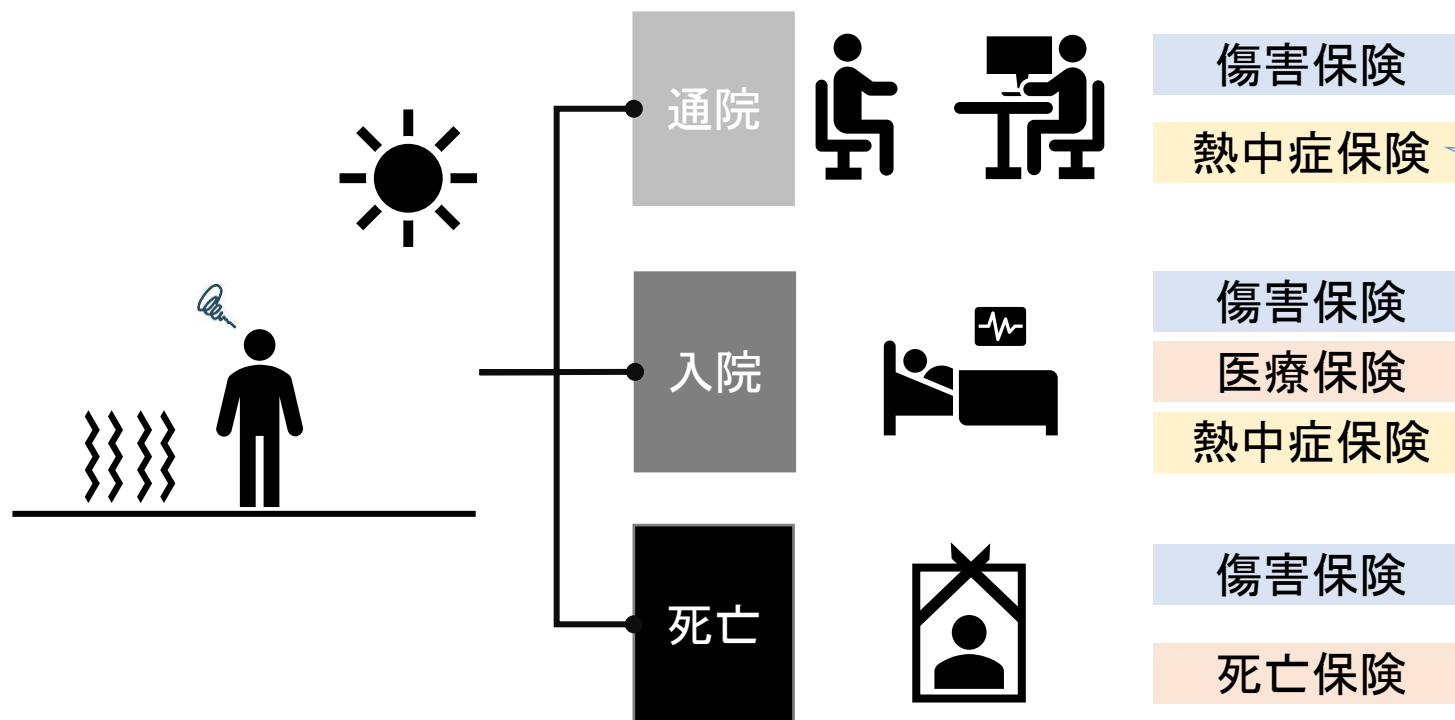
▶労災保険の主な給付内容

区分	給付の種類	給付内容
ケガ等	療養給付	業務／複数事業の業務／通勤による傷病について、病院等で治療する場合 → 必要な治療が無料
	休業給付	業務／複数事業の業務／通勤による傷病の療養のため労働することができない日が4日以上となった場合 → 休業4日目以降、休業1日につき「休業等給付（給付基礎日額の60%）」と「特別支給金（給付基礎日額の20%）」を支給
障害・傷病	障害給付	業務／複数事業の業務／通勤による傷病が治った後、以下の障害が残った場合 → 第1級～第7級 → 障害等年金を支給 → 第8級～第14級 → 障害等一時金を支給
	傷病年金	業務／複数事業の業務／通勤による傷病が療養開始後1年6か月経過しても治っておらず、所定の傷病等級に該当した場合 → 傷病等級（第1級～第3級）に応じて傷病等年金・傷病特別支給金を支給
	介護給付	業務／複数事業の業務／通勤により障害等年金または傷病等年金を受給している方のうち、一定の障害を有し現に介護を受けている場合 → 介護に要する費用を支給
死亡	遺族給付	業務／複数事業の業務／通勤により死亡した場合 → 受給資格を持つ遺族の人数に応じて、遺族等年金または遺族等一時金を支給
	葬祭料	業務／複数事業の業務／通勤により死亡した方の葬祭を行う場合 → 31万5千円に給付基礎日額の30日分を加えた額または給付基礎日額の60日分のいずれか高い方

1－(3)熱中症を補償する主な民間保険商品

- 生命保険会社では、「医療保険」にて熱中症による入院を保障(災害ではなく疾病として取扱い)し、「死亡保険」においては災害以外による死亡として保障しています。
- 損害保険会社の一部商品では、「傷害保険」に熱中症を補償する「特約」を付帯することで補償(特約付帯無だと補償対象外)
- 上記に加え、近年の熱中症の増加を受け、令和4年頃より、少額短期保険会社が**スマホ等で手軽に加入できる熱中症保険**(熱中症により点滴を受けた場合等)の提供が拡大しています。

▶熱中症保障(補償)にかかる主な民間保険商品イメージ



【熱中症保険の特長】

- ・スマホで加入・請求手続きが完了
- ・治療のため点滴を受けたことが支払要件となっている商品が一般的

2-(1) 生命共済の概要

- JA共済では、幅広い事由に対する保障を提供し、組合員・利用者の皆さまへ安心と満足をお届けしています。
- 熱中症との関連では、生命保険会社と同様、死亡や入院を保障しています。

▶主な生命共済

名称	共済金のお支払事由
終身共済 定期生命共済	死亡や重度の後遺障害・要介護状態
養老生命共済 こども共済	上記に加え、満期時に満期共済金
医療共済	入院や手術
がん共済	がんの診断およびその後の治療
介護共済	公的介護保険制度の要介護2以上
生活障害共済	1～4級の身体障害者手帳の交付
特定重度疾病共済	三大疾病や生活習慣病などの所定の疾病
認知症共済	所定の認知症および軽度認知障害

▶共済金の支払実績

＜死亡保障＞ (億円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
	総計	5,138	5,553	5,893
主な 内訳	がん	1,602	1,649	1,621
	心疾患	658	734	760
	老衰	492	624	759
	脳血管疾患	307	302	329
	Covid-19	102	61	72

＜入院・手術保障＞ (億円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
	総計	1,830	1,233	1,249
主な 内訳	がん	280	286	284
	Covid-19	692	18	6
	骨折	87	88	90
	白内障	81	87	90
	脳血管疾患	57	58	56

2-(2) 生命共済における熱中症の支払実績

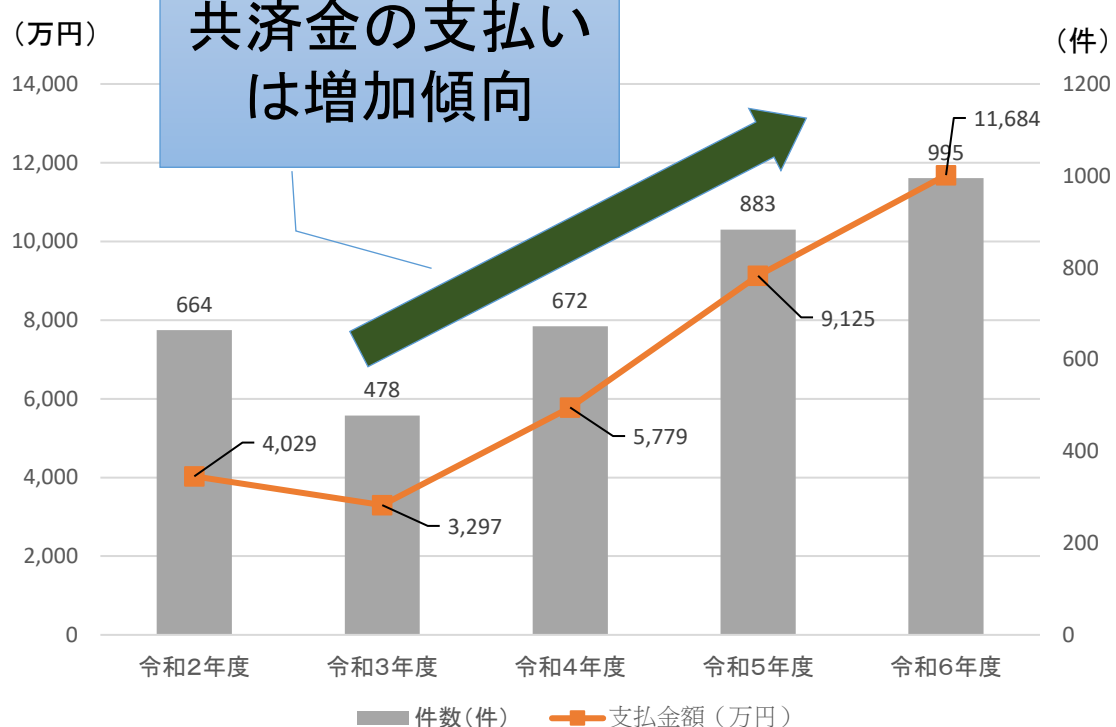
- 生命共済における直近5年間※の「熱中症」による支払実績は以下のとおりです。

※データ管理の制約上、令和2年度については7月以降のデータのみ集計。

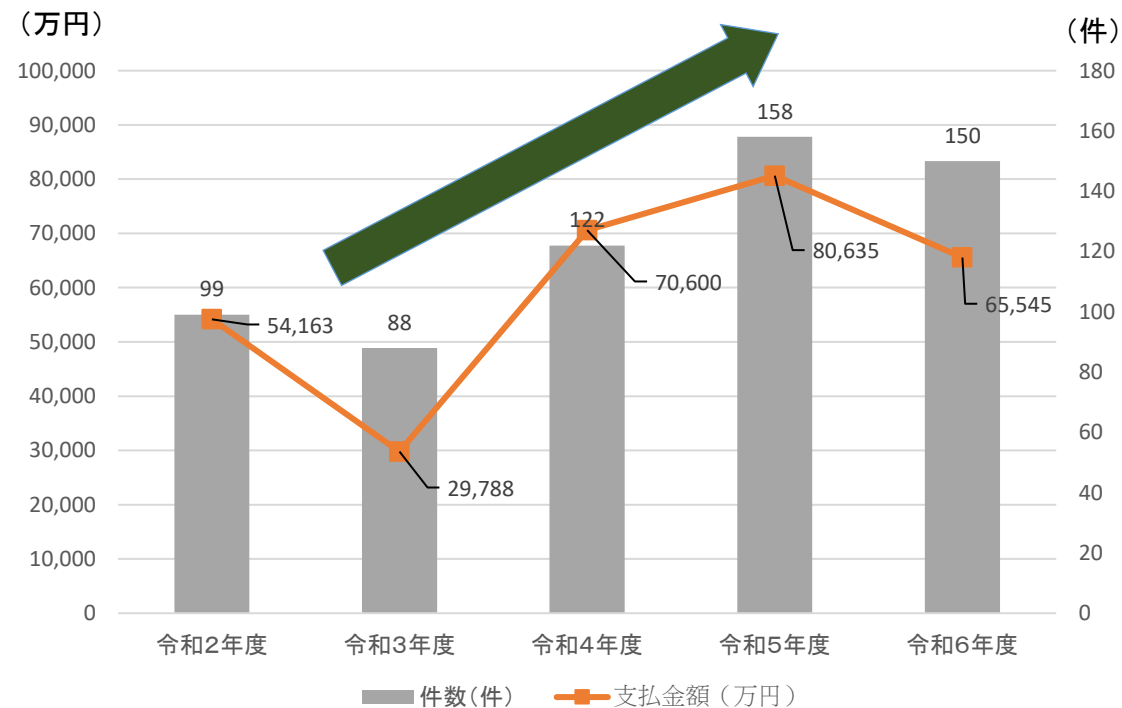
- 令和3年度は新型コロナウイルスによる外出自粛等の影響もあり減少していますが、入院・死亡ともに年々増加傾向にあります。

▶JA共済(生命共済)における「熱中症」による支払実績

・入院



・死亡

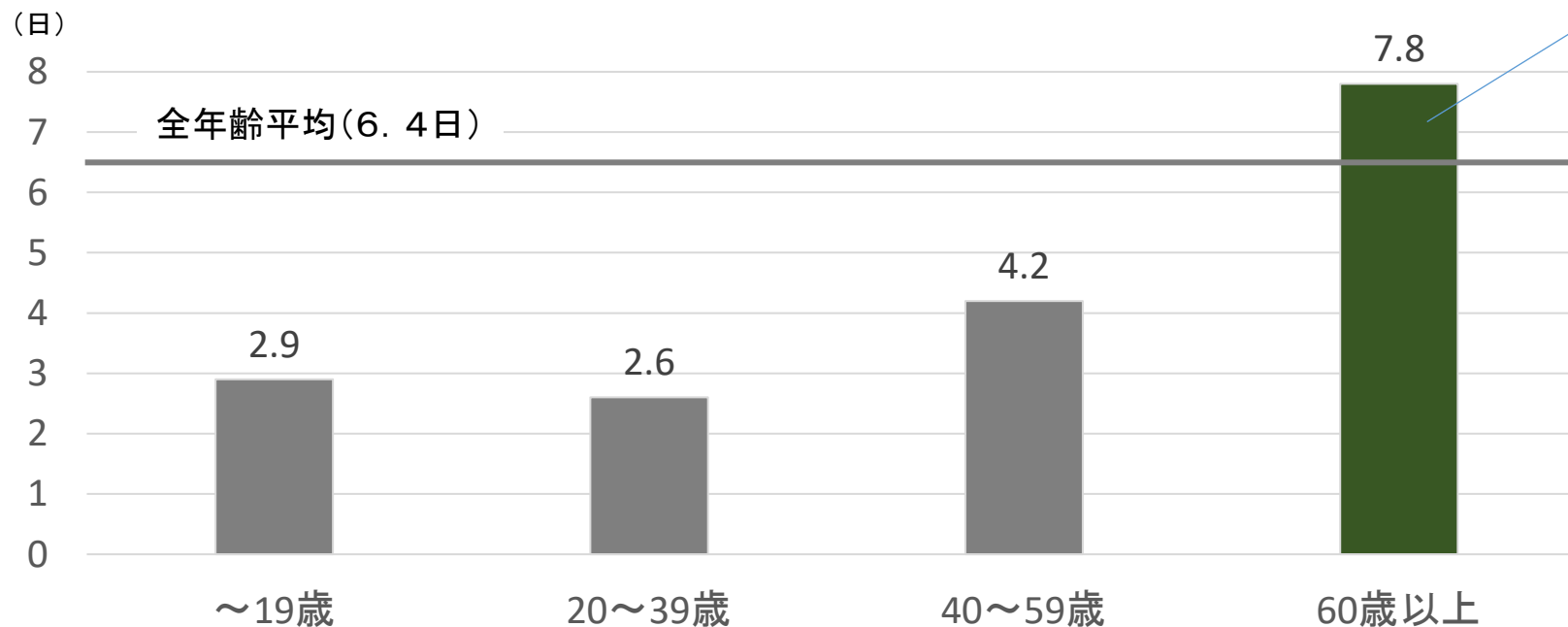


2-(3) 支払事例からみる傾向(入院編)

- 5年間の入院事例を合計し分析したところ、「熱中症」による平均入院日数は全年齢平均で「6.4日」となっています。
- 年齢別では40歳以降から徐々に入院日数が増え始め、60歳以上では「7.8日」となっており、高齢者は入院が長期化する傾向にあります。

▶「熱中症」による支払(年齢別×平均入院日数)

平均入院日数



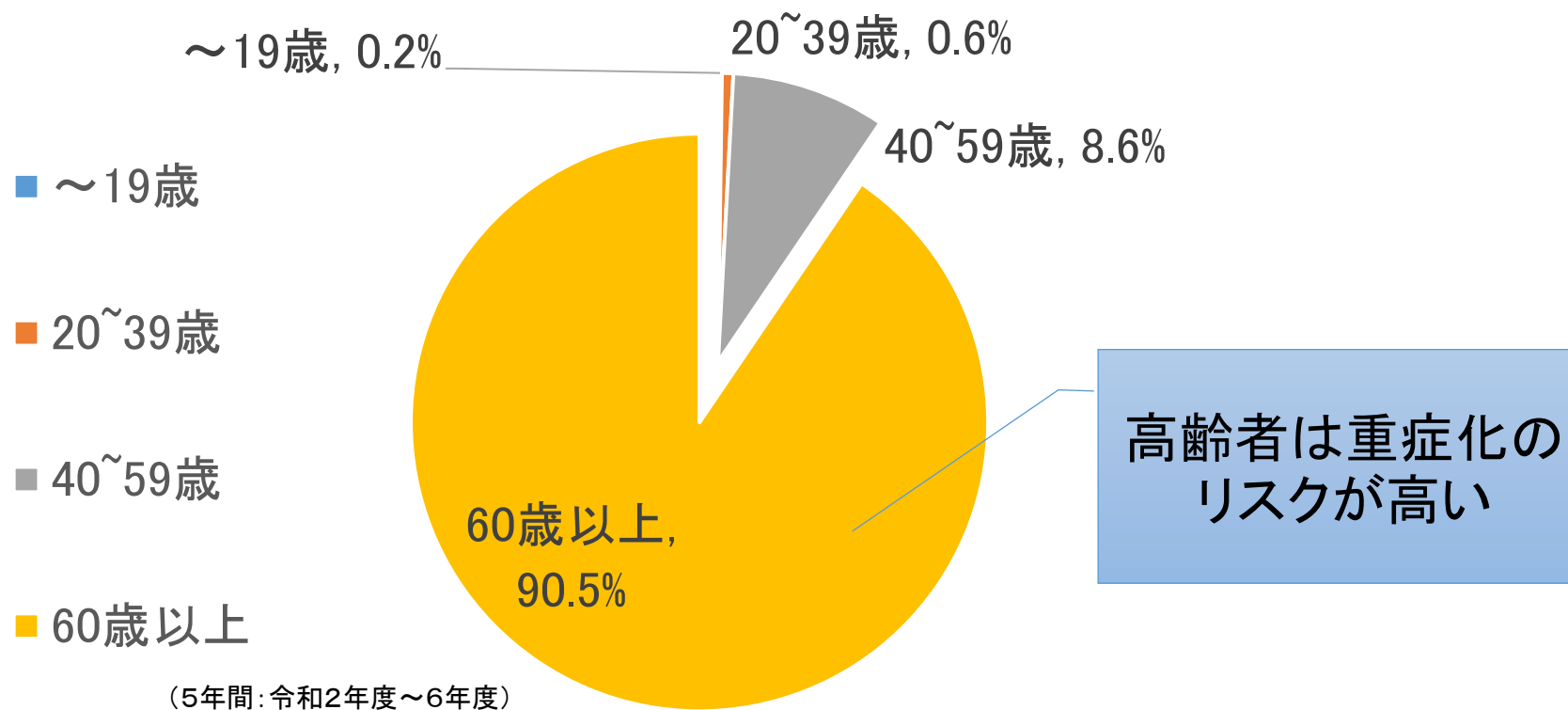
高齢者は入院が
長期化する傾向

(5年間: 令和2年度～6年度)

2-(4) 支払事例からみる傾向(死亡編)

- 「熱中症」による死亡請求は年々増加しており、直近3年間は100件超となっています。
- 5年間の死亡事例を合計・分析したところ、年齢別では60歳以上が90%を超えており、前掲の平均入院日数とあわせ、高齢者は症状が重症化する傾向にあります。

▶「熱中症」による支払(年齢別×死亡請求)



2-(5) 支払事例(重症化事例)

- 支払事例1(入院長期化):62歳 女性
8月に熱中症により寝たきりとなり、8ヶ月間入院したもの。
- 支払事例2(入院長期化):74歳 女性
元々持病(腎不全、腎がん)があり治療中であった方が、7月30日に熱中症となり、寝たきりとなったもの。
元々の持病による入院も含めて1年以上入院したもの。
- 支払事例3(死亡):66歳 女性
8月下旬の朝に自宅の敷地内で死亡していたところを発見されたもの。
- 支払事例4(死亡):88歳 男性
7月15日に熱中症となり、翌日、熱中症を原因として多臓器不全となり、7月18日に死亡したもの。

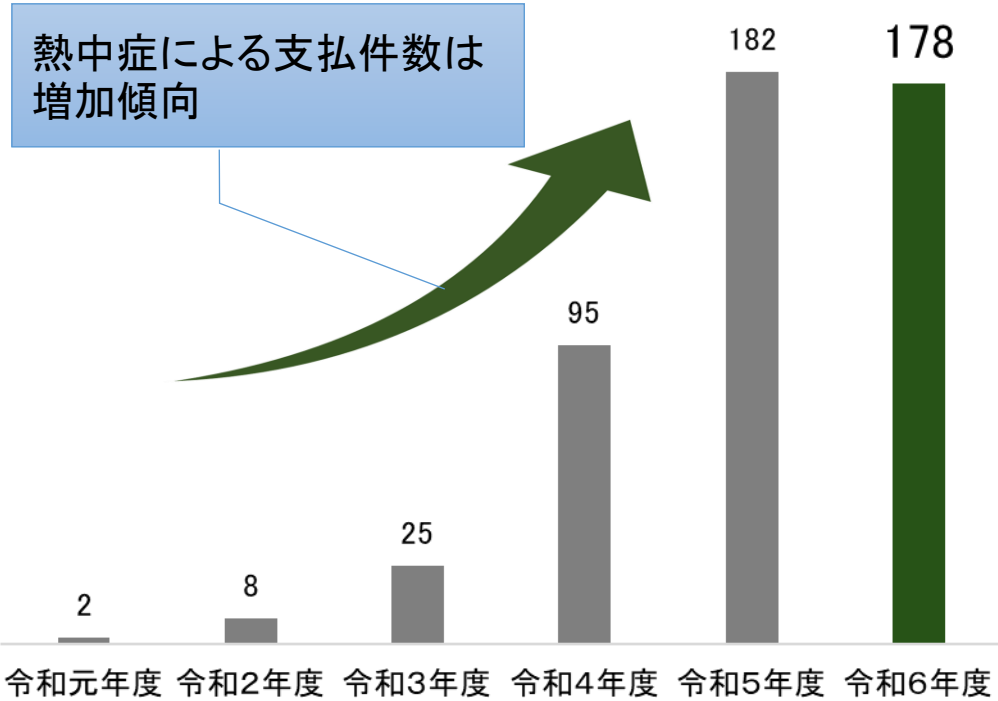
2－(6) 傷害保険の概略(共栄火災 JA安心倶楽部)

- JA共済グループの損害保険会社である共栄火災社では、JAの組合員を対象とした保険商品「JA安心倶楽部」にて、傷害・賠償責任をはじめとした様々な日常生活上のリスクを広く補償する商品を提供しています。
- この商品では、被保険者が熱中症による通院・入院・後遺障害が生じた場合の治療費や、**入院等に伴う家事代行費用や旅行等のキャンセル費用**といった諸費用についても補償しています。
(補償の充実した「安泰プラン」または「充実プラン」への加入が必要となります)

▶JA安心倶楽部における熱中症補償

保険金の種類	保険金を支払う場合
傷害部位・ 症状別保険金	➤ 被保険者が熱中症により医師の治療(通院または入院)を受けた場合に、保険金をお支払い。
傷害後遺障害 保険金	➤ 被保険者が熱中症により重度の後遺障害が生じた場合に、保険金をお支払い。
家事代行費用 保険金	➤ 被保険者が熱中症により入院され、入院期間中に被保険者やその親族が家事代行費用※を負担された場合に、保険金をお支払い。 ※家事代行サービス・清掃代行サービス・ベビーシッターサービス等の利用費用をいいます。
キャンセル費用 保険金	➤ 被保険者が予約していた旅行・宿泊施設等の特定のサービスを受ける前に、被保険者、配偶者、1親等内親族が入院または死亡したことにより、被保険者がキャンセル費用を負担された場合に、保険金をお支払い。

▶熱中症補償支払実績



※JA安心倶楽部の詳細は、共栄火災HP掲載のパンフレット(https://www.kyoeikasai.co.jp/ag/ja/ja_anshin/index_201710_2.html)等をご参照ください。

3-(1) JA共済の地域貢献活動の全体像

- H28年度から「地域・農業活性化積立金」を創設し、地域の実状や時勢に応じた様々な活動に、全国のJAと一体となって取り組んでいます。

▶地域・農業活性化積立金を活用した活用実績(H28～R5年度)

農業分野	主な取組み	取組実績	ひと分野 健康管理・増進活動・介護・福祉活動	主な取組み	取組実績
	食育イベント・農業体験	229万人参加		健康診断・人間ドック等の助成	71万人参加
	農作業効率化に向けた先進機器等の寄贈	1,341か所 (うちドローン89台)		車いすの寄贈	958台
	農業高校・農業大学への農作業機械等の寄贈	375校		介護予防教室の開催(デイサービス含む)	4万人参加
	地域特産物のPRイベント・資材作製等	1,791件		防災教室、防災イベントの開催	34万人参加
	JAまつり等の開催・協賛	794万人参加		防災用品の寄贈等	482件
	地産・地消促進活動への支援	724件		交通安全指導車の寄贈	177台
	中央会・担い手サポートセンターを通じた活動支援	61件		交通安全啓発資材の寄贈等	468件
	直売所におけるイベント	241万人参加		交通安全教室・イベントの開催	21万人参加
	直売所の設備強化	554か所		女性大学・婚活等各種イベントの開催	92万人参加
ひと分野 健康管理・増進活動・介護・福祉活動	鳥獣被害対策	1,421件	くらし分野 生活支援活動・協同活動・文化支援活動・環境保全活動	防犯カメラの寄贈	1,702台
	検診車の寄贈	16台		スポーツ大会の開催・協賛	282万人参加
	血圧計の寄贈	1,124台		移動購買車の寄贈	142台
	AEDの寄贈	1,359台		救急自動車の寄贈	40台
	健康教室・イベント(体操・ウオギン含む)	70万人参加		子育て支援イベントの開催	125万人参加
				高齢者生活支援の実施	1,212件

実施した取組み

約38,000件

イベント参加者数

約1,900万人

▶時勢に応じた活動

例1:コロナ対策

農業分野	・消費が低迷する農産物の消費促進に向けたPR活動 ・JAによる農畜産物の寄贈
ひと分野	・地域住民・介護施設への感染防止資材等の配付 ・医療機関への医療機器(体温計等)の寄贈
いえ分野	・災害時の避難所用に感染防止資材の備蓄
くるま分野	・交通安全教室の代替として、幼児向け家庭用交通安全啓発資材を作製・配布
くらし分野	・医療・福祉機関や困窮する学生等への食料支援

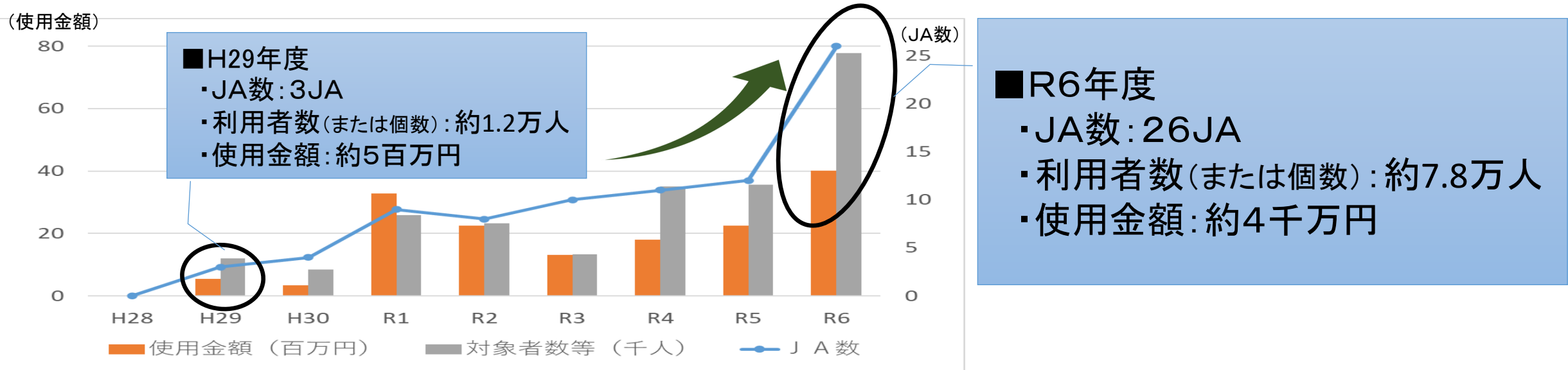
例2:鳥獣被害対策

農業分野	・JAによる捕獲罠の寄贈 ・被害防止用の電気柵の購入助成
------	---------------------------------

3-（2） 熱中症対策の傾向（量）

- H28年度以降、JA共済の地域貢献活動として熱中症対策に取り組んでいるJAが増加しています。
- 特に、R6年度は記録的な猛暑が続いたこともあり、取組数が急増しました。
- 今後も増加傾向は続くことが見込まれます。

▶熱中症対策の取組JA数等の推移（H28～R6年度）



▶夏（6～8月）の平均気温の推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
平均気温（℃）	約25.6℃	約25.5℃	約26.4℃	約25.9℃	約25.9℃	約25.2℃	約26.4℃	約28.5℃	約28.5℃
備考	平年よりやや高め	平年並み	猛暑年	平年より高め	平年より高め	やや涼しい夏	猛暑年	記録的猛暑(7月平均)	R5と並び史上最高

3-(2) 熱中症対策の傾向(内容)

- 区分は、対策物資の寄贈・配布が多く、次いで予防の啓発活動が多く取り組まれました。
- 内容を見ると、帽子の配布や戸別訪問等、もともとのJAの取組みを利用したものの多い傾向があります。

▶区分・内容別、取組JA数等の推移(H28～R6年度)

区分	内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	総計
対策機器の寄贈	スポットクーラー 可動式空調機 等	0	0	0	1	1	1	2	0	2	7
対策物資の寄贈・配布		0	3	3	5	5	4	7	9	14	50
	帽子	0	2	3	2	1	2	4	5	6	25
	飲料水（特産品ジュース）	0	0	0	1	1	0	0	1	7	10
	その他（クールタオル等）	0	1	0	2	3	2	3	3	1	15
対策物資の購入助成	空調服	0	0	0	1	1	0	1	1	2	6
予防の啓発活動		0	0	1	2	1	5	1	2	8	20
	戸別訪問・チラシ	0		1			2	1	1	4	9
	講習会	0	0	0	2	0	2	0	1	1	6
	その他（チラシ配布等）	0	0	0	0	1	1	0	0	3	5
総計		0	3	4	9	8	10	11	12	26	83

・戸別訪問

熱中症気を付けて！

【福島さくら】JA福島さくらは、農作業時の熱中症対策として「塩タブレット」を作成し、組合員へ配布をはじめた＝写真。

塩タブレットは、近年の高

JA福島さくら
塩タブレット配布

に「農作業事故に注意！熱中症予防！」と書かれたメッセージカードを同封し啓発。イベントや指導会などで配布する他、職員が組合員を訪問した際に、農作業事故防止のちらしと一緒に配布する。



(R6 8/15(水)日本農業新聞)

3-(2) 熱中症対策の傾向(内容)

・組合員を対象にした講習会



・帽子の寄贈(組合員だより)

暑さ対策の帽子を配布しました

夏の農作業を支援するため、農事部組織を通じてハット型の帽子を配布しました。令和6年は800mmを超える雨を降らせた台風10号の襲来、7月からの高温乾燥と異常気象の夏でした。そんな中でも、ミカンの隔年結果の是正には園地での摘果作業が欠かせません。暑さ対策に活用いただき、引き続き安定生産を目指していきましょう。

帽子の配布はJA共済の地域農業活性化促進助成金を活用しています。



農事部長会の代表として農事部長会長へ贈呈

●柑橘指導課

・予防の啓発活動(JAだより)

JA共済地域貢献活動 熱中症予防に 塩あめ提供

当JAは、8月上旬から各事業所の窓口にて、JA共済地域貢献活動の一環として、利用者の健康管理を目的に飴の提供を行いました。

今夏は、連日のように熱中症特別警戒アラートが発表され、熱中症のリスクが高まっています。そこで、各窓口にて「エーコープ塩あめ」を設置して来店する利用者

提供し、注意喚起と予防を呼び掛けました。
当JAでは今後も、様々な形で、組合員や地域住民への地域貢献活動に取り組んでまいります。



窓口にて提供した塩あめ

3-(3) 熱中症対策の取組み(JAの取組事例)

● 助成概要

対象者:〇〇農業協同組合 組合員 先着×××着

支援金額:3,000円(1着)

支援期限:令和6年11月まで

支援時期:令和6年12月中旬

▶案内ちらし(空調服購入助成)

農業協同組合 空調服購入支援

毎年続く猛暑時にも快適に作業いただくことを目的に、JA いちかわが「着るだけで涼しい」空調服の供給に対し、組合員の皆様に支援を行います！
この機会にぜひご購入ください。

(株)空調服 製品

一着につき **3,000 円** を
支援します！先着 **300 着** 限定！！

空調服ベスト KU91830

19,800 円 (税込)

素材：ポリエステル 100%
カラー：ネイビー・シルバー
サイズ：5L～M
特徴：アレンジ性に優れたベーシックなベスト
透湿性、撥水性に優れた素材（エアコンテック）

空調服長袖ブルゾン KU90540

19,690 円 (税込)

素材：ポリエステル 100%
カラー：シルバー・モスグリーン・ネイビー
チャコール・ダークブルー
サイズ：5L～S
特徴：軽くて使いやすいポリエステル素材（エアコンテック）
を使用したベストセラー。カラー・サイズ展開が豊富

ベスト・長袖ともスターターセット付
最大風力 48.8/秒で動作時間約 8 時間

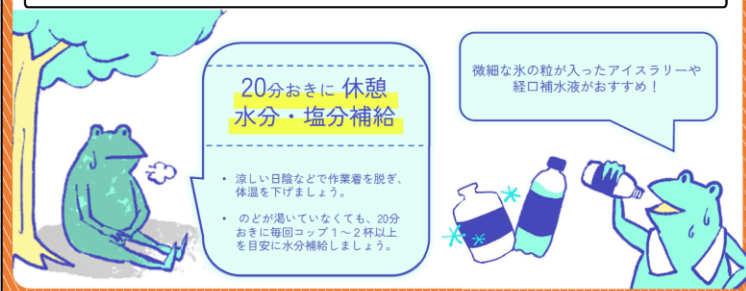
3-(4) 熱中症対策の取組み(JA共済連の取組事例)

- 農林水産省様による「熱中症対策研修テキスト」、大塚製薬(株)様による「熱中症対策アンバサダー®講座」を全国のJAへ案内しています。

▶農林水産省様によるテキスト

農作業中の熱中症対策 ▶ 休憩と水分・塩分補給

- ・高温下での長時間作業を避け、「こまめな休憩と水分・塩分補給」を行い、「絶対に無理をしない、頑張らずに」が大切です。
- ・水分補給は、発汗によって失われた体内の水分を回復・維持し深部体温の上昇を抑えます。塩分(ナトリウム)などの電解質と糖質を含んだ飲料は、水分吸収を早めるため、意識的に摂取するよう心がけましょう。



農作業中の熱中症対策 ▶ 単独作業は避ける 熱中症対策アイテムの活用

単独作業は避ける

- ・熱中症になってしまった際、早期発見、対処が大切です。
- ・できるだけ単独での作業は避けましょう。単独で作業する場合も、家族や従業員等が定期的に巡回を行うことにより、定期的に確認できる環境で作業しましょう。



熱中症対策アイテムの活用

- ・農業は暑い環境で作業することが多く、熱中症リスクの高い業種です。
- ・熱中症対策として、アイテムを活用することでリスクを下げることができます。
- ・具体的なアイテムと活用方法は次のページ以降で！



熱中症対策アイテムと活用方法①

空調服・ネッククーラー

- ・涼しさを感じながら作業を行うことができます。例えば、ファン付きウェアやネッククーラー等があり、どちらもホームセンター等で購入できます。
- ・また、ファン付きウェアについては、濡らしたインナーを内側に着用することで、より効果的に身体を冷やすことが期待できます。暑い時間帯の作業が避けられないタイミングで活用しましょう！



空調服 (ファン付き作業着)

刈り払い機を用いた草刈り作業では、ファン付き作業服未着用の場合に比べ、**深部体温^{※1}の上昇を抑制する効果がある**という実証結果があります。

※1 深部体温は、脳や臓器など体の内部の温度で、内臓の働きを守るため、内環境の影響を受けにくく一定に保たれているものです。深部体温が上がることで、熱中症が発症するリスクが高まります。



※2 深部体温計測機(「カナリア」)のリスクレベル(1~4)も深部体温指数(指数が高い方が深部体温が高い)として示しています。作業内容・作業環境によって効果は異なる可能性があります。

熱中症対策アイテムの活用方法②

その他アイテム

- ・農作業中、ヘルメットや帽子を着用する機会も多いと思います。通気性のあるものや熱を逃がしやすい素材のものを、頭部に熱がこもらないようにしましょう！



- ・スマートウォッチといったウェアラブル端末には、体表温度とその熱の流れから身体の状態を判断し、アラートを発信できるものもあります。作業中に装着し、危機をより早く察知できるようにしましょう！

ウェアラブル端末の一例(カナリア)



— 着用者からの意見 —

- ・見守られている気がして安心できる。音が出ると、休む様に心がけた。
- ・自分自身では「これくらい」と重要と考えていなかった時、音が鳴って初めて危険だったことに気づいた。
- ・刈払機使用中は警告音が聞こえにくい。

▶大塚製薬(株)様による講座案内

Otsuka

熱中症対策アンバサダー®講座

本講座は右記団体の協力を得て開催します:

【オンデマンドによる講義】

- 応募開始日: 2025年06月01日 (日) 00:00
- 応募締切日: 2025年11月30日 (日) 23:59
- 定員数: 300名様

実施内容

お申し込み後、受講番号とオンデマンド講義のURLをメールにてお知らせします。メールのご受信後、2週間以内に講義I・Eトピックス全ての視聴を終えてください。

講義 PART 1 熱中症とは 大塚製薬株式会社

講義 PART 2 熱中症にならないために 大塚製薬株式会社

トピックス①「熱中症対策 ～近年の傾向と環境省の取組～」 環境省

トピックス②「トピックス研修 ～主として自治体職員の方々向けの情報提供～」 独立行政法人環境再生保全機構

確認テスト

熱中症対策アンバサダーの認定には、当講座を受講し、確認テストに合格する必要があります。講義I・Eトピックスの視聴確認がとれたら、確認テストのご案内をメールにてお知らせいたします。確認テストの有効期限は全動画の視聴完了時間より2週間となります。それまでに確認テストを完了(受講合格)ください。

お申し込み方法

下記のURLもしくは二次元コードよりアクセスし、お申込みください。

<https://nccx.otsuka/sem/sam004127>

●注意事項: 携帯電話のメールアドレスを登録される場合、受信拒否にならないように、no-reply@otsuka.jpからのメールを受信できるように、設定のご確認をお願いします。
●返信がない場合は、応募が完了していない可能性がありますので、事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ先

「熱中症対策アンバサダー講座事務局」 URL: <https://opnc.info/hamb>
TEL: 0120-610-025 (通話無料/10~18時受付/無料)

主催: 大塚製薬株式会社 特別協力: 独立行政法人環境再生保全機構 後援: 環境省・文部科学省・農林水産省

3-(5) 熱中症対策の取組み(今後の課題と展望)

- 高齢化が進む中で、熱中症対策は今後ますます重要になると考えております。
- JA共済では、これらの課題に対応し、地域社会の安全と健康を守るため、今後も積極的に取り組んでまいります。

本日のまとめ



① 高齢者のリスクの増加

- JA共済の支払実績では、60歳以上が熱中症死亡事例の90%以上を占める。
- 平均入院日数も高齢者では7.8日と長期化傾向。



② 予防・啓発の強化

- 帽子の配布、戸別訪問、講習会など地域密着型の活動が増加。
- 農林水産省や民間企業と連携した研修テキスト・講座の提供。



③ 地域連携の重要性

- JA、行政、医療機関が連携し、地域の実情に応じた対策を展開。
- 地域・農業活性化積立金を活用した支援が拡充。



④ テクノロジーの活用

- 空調服購入助成による体調管理支援。
- 高齢者でも使いやすい機器の普及が課題。

今後の展望



- 高齢化の進行に伴い、制度整備や支援体制の強化が求められる。
- 熱中症対策を“命を守る地域活動”として位置づけ、持続可能な仕組みづくりが必要。